

卓 話： 卓話「私が見た中国」 菊田真紀子様



新年あけましておめでとうございます。本日、皆様の前でお話しする貴重な機会を頂戴しましたことに対し、まずもって厚く感謝を申し上げます。どうぞよろしくお願いします。

中国の最近の事情については、特に経済界の皆様にとっては私よりも詳しくご存じの事と思いますので、私が今日お話させて頂くのは1988年から1990年、今から約15年前の事になりますが、当時18歳、加茂高校を卒業して生まれて初めて行った国、中国での驚きの体験や様々なカルチャーショックについてお話したいと思います。

15年前の中国と言いますと日中国交回復が1972年になされてちょうど16年たった頃でございます。当時、日中の民間交流や経済交流といったものが少しずつ始まったという時期ではなかったかと思いますが、まだまだ一般の中国人がどのような暮らしをしているのか、なかなか伝わってこないという時代でした。留学を決めたもののどの様な準備をして行ったらよいのか、大学の寮の設備はどうか、衣料や日常生活品や食糧がどのくらい手に入るのか、物価はどうか等々全くわかりませんでした。銀行の外国送金システムも完全に安全を担保される状況ではないと聞き、父が用意してくれた学費、生活費は自分で管理し持っていくことになりました。足りなくなったら連絡しろと言われ200万を持っていきましたが、結局2年間の学費、生活費、旅費など全て使っても余って帰ってきました。随分安上がりで親孝行しました。

私が留学した中国黒龍江省ハルビン市は北緯46度に位置する寒さの厳しい所でした。10月中旬に初雪が降ったり真冬には-35度あるいは40度近くまで冷え込みます。今日はちなみに-20度前後のようです。最近地球温暖化現象で-30度以下にはならないという話を伝え聞いていますが、当時は外に出るとまつ毛や髪の毛も凍り付く寒さで、冬を耐えられるかどうかが一番の心配でした。毛皮などの防寒具で完全装備をしました。だんだん体が慣れてきて脂肪も増え冬の間で4kgくらい体重が増えました。遊ぶところもなく体を動かすことも少なくなるので運動不足になり冬はストレスが溜まりました。もっとも現地の人達は凍った川の上でスケートを楽しんだり太極拳をやったり、寒中水泳大会、札幌の雪祭りのような氷祭りを開催したり様々なイベントで冬の楽しみを創っていました。中国は広いので地域によって北京語、上海語、広東語、福建語、朝鮮語など地方によって話す言葉が全く違います。テレビのドラマでも字幕放送がありました。東北の言葉が最も美しいと言われ、テレビのニュースキャスターは東北出身者が多いのです。ですからきれいな中国語を習得するには東北地方がいいと思います。以前三条市にがく州市の研修生が来られた時、日本語を教えたり、コミュニケーションの機会がありました。彼等に中国語で話すと「発音がいいですね」と誉められましたが、彼等の中国語はなまりが強く聞き取れませんでした。彼等より北京語は標準だと自分でも思いました。当時、黒龍江大学には全部で16人日本人がいました。新潟県からは私の他に1人、北海道から1人、静岡県が多くて10人くらい。あとは長崎や岡山から1人くらいだったかと思っています。先進国ではなく発展途上国の中国に留学するなんて人は大体変わっている人が多かったで

す。お互いに変な人が来たなあと感じていました。日本語を中国の学生に教える教師も数名いました。他の国からは国費でロシアやカナダ、ドイツ、アメリカ、韓国からわずかですが留学生が数名来ていました。これら留学生が中国の学生と机を並べて勉強するとか一緒に寮に住むということは基本的にありませんでした。中国ではホームステイも規制されていました。ですから、時々中国の学生さん達の住む寮に遊びに行ったり、放課後一緒に交流するという程度です。最初言葉は全くできませんでした。小学校1年生のように「あいうえおかきくけこ」から勉強が始まりました。初めての1ヶ月は授業が苦痛でしたし、家が恋しくてホームシックにかかり一刻も早く日本に帰りたいと思いましたが、国際電話をかけるにも運が良ければ1時間でかかるし、運が悪いと、半日待たされるというような状況で、手紙のやりとりにも、ほぼ1週間かかったのです。覚悟を決めて帰国を諦めました。授業は先生が話す言葉が全くわからないので、とりあえず黒板に文字を書き残し、当たり前ですが全て漢字なので書き写すだけでも凄い作業でしたが、それを寮に帰ってから辞書を引しながら意味を理解する繰り返しが3ヶ月続きました。言葉は階段を上がるように少しずつマスターできるわけではありません。全く話せない幼児が、ある時ふとした瞬間に「ママ」とか「パパ」とか言えるようになるのと同じで私の場合もずっと相手の言っていることが音楽のようにただ耳に流れている状態が続いていたのが、ある時ふと面白いように次々に言葉が聞き取れるようになりました。止まっていた水が一気に流れ出すような感覚で、そこからは相手の言葉を理解することも自分の言いたいことも言えるようになりました。こうなるまでには個人差がありますが平均で半年かかるようです。

寮での生活は私達留学生の環境は恵まれていました。二人部屋を割り当てられベッドや家具、勉強机も一人づつ与えられました。中国の学生さんは全寮制でしたが、6人か8人くらいで一部屋を使っていました。勉強机も家具もみんなが共同で順番に使っていたり、窓ガラスが割れているのをいつまでも修繕がなされず紙などで塞いであったり、電灯も暗くて劣悪な環境でしたのでとても気の毒でした。私達留学生の寮も水道がしょっちゅう停まったり停電になったり夜になれば11時過ぎると暖房が停まったり、冷蔵庫も洗濯機もお風呂もみんな共同で使っていましたが、それでも中国の学生さん達に比べたらこれ以上の贅沢は言えないと思っていました。私は2年間洗濯は洗濯板で手でしたし、買い物に使うナイロンの袋を洗って何回も使ったり、今考えるとよくガマンできたなあと感心しますが、当時は不自由があたりまえ、不便があたりまえ、ないのが当たり前、あればありがたいという生活でした。でも物を何でも大事に使ったり、リサイクルしたり、工夫したりする面白さもありました。中国人は自分の大切な物には何でも鍵を掛けて保管します。寮の中でもタンスの引き出しや机の引き出し一つ一つに鍵を掛けている人もいました。物を盗られたり紛失したら自分の責任。他人を信用しないというか、基本的に他人は疑ってかかる人間づきあいの前提があるように思いました。中国の学生さんはみんな真面目によく勉強していました。国費で学費がまかなわれていることもあり、エリート意識や自尊心、愛国心も強く感じました。日本人に対しても総じて友好的で過去の歴史について感情をぶつけてくるというようなことはありませんでした。それよりも資源もない小国日本が戦後なぜあのように急激に成長したのか、発展の秘策は何か、なぜ